

会 議 録

会 議 名	令和2年度（2020年度）第3回八王子市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会	
日 時	令和2年（2020年）11月12日（木）午後2時00分～3時30分	
場 所	八王子市役所 本庁舎 802会議室	
出席者氏名	委 員	井上仁会長、大宝院清孝副会長、荒井容子委員、石井淳委員、石田健太郎委員、岡崎理香委員、澤井菊男委員、田上美穂委員、山本由佳理委員、 (会長、副会長、以下五十音順)
	関連所管	
	事務局	澤田子どものしあわせ課長、小池児童青少年課長、子育て支援課長、東郷子ども家庭支援センター館長、堀川課長補佐、鈴木主査、小野主査、宮司主任
欠席者氏名	池水大委員、内野彰裕委員、佐戸博委員、町田利恵委員、松野美樹委員、森直美委員、若林育男委員	
議 題	議事 1 第3次八王子市子ども育成計画 令和元年度（2019年度）取組状況の点検及び評価について	
公開・非公開の別	公開	
非公開理由		
傍聴人の数	なし	
配付資料名	別紙のとおり	
会議の内容	別紙のとおり	

(別紙) 配付資料

資料1 新型コロナウイルス感染症流行下における育児支援対策等サービス事業について

資料2 産前・産後サポート事業の拡充について

資料3 第3次子ども育成計画 点検・評価報告書案（令和元年度分）

(会議の内容)

【事務局】

ただいまより、令和2年度第3回八王子市社会福祉審議会児童福祉専門分科会を始め。本分科会委員総数は16名で、本日の出席者は9名で開催要件を満たしている。

■「新型コロナウイルス感染症流行下における育児支援対策等サービス事業について」及び「産前・産後サポート事業の拡充について」

【井上会長】

八王子市の単独事業か。

【東郷子ども家庭支援センター館長】

育児支援対策等サービス事業は国庫補助事業である。産前・産後サポート事業は東京都補助事業であるが、補助対象となっていない産前部分は、今までどおり八王子市独自事業として行っていく。

【井上会長】

育児支援対策等サービス事業はホームページ及びチラシで周知とあるが、産前・産後サポート事業の周知はホームページだけか。

【東郷子ども家庭支援センター館長】

チラシを現在作成しており、配る予定である。

【井上会長】

情報を得にくい御家庭等へ丁寧に周知してほしい。

【東郷子ども家庭支援センター館長】

保健福祉センター等と連携しながら周知したいと考えている。全戸訪問の際にチラシを配ってもらう等も想定している。

【井上会長】

一番支援を要するところに届かないという懸念がある。八王子市はあかちゃん訪問事業の訪問率が99.3%であるので、ぜひ御協力いただきたい。

その他に新型コロナウイルス感染症の影響を受け、八王子市として新たに事業化を目指しているような施策を何か考えているか。例えば、学習支援やひとり親家庭の貧困対策等である。

【小林子育て支援課長】

今年度については、ひとり親家庭を対象にした国や市独自の給付金を支給している。来年度以降の給付金については、今後の動向を見て対応していきたいと思う。

給付金以外のものについては、テレワーク推進の事業を今年度行っており、来年度も継続したいと考えている。ひとり親家庭では、一人で子育てをしながら家計も担っているということもあるので、自宅でテレワーク環境の中で仕事をしていくことによって、家の中で子どもが近くにいっても仕事ができ、それが就労に繋がっていくということも可能である。今までテレワークをやったことがない方については、パソコンを使った在宅就労等を体験する講習会を、この9～11月の3か月で行っている。まさに今その期間だが、参加者から好評で、積極的にマイクロソフトの資格のMOSも取っていかうというような気持ちになっていただいた。研修が終わった後は、実際にどういう形で就労に結

びついていくか、個別に就労支援している。

【井上会長】

これから冬休み、春休みに入っていった時に給食が途絶える。八王子市はフードバンクに補助金を出しているのか。

【澤田子どものしあわせ課長】

フードバンクへの補助金というものはない。子ども食堂へは、食堂自体が開催できないため、食糧配布のための補助金を、補正予算を組みながら対応している。

【井上会長】

ひとり親家庭や困窮家庭へのフードバンク事業がそこでリンクできるとよい。

八王子市は、失職率は上がっているのか。東京都全体でも倒産している会社の数が増えており、失職者も増えている。そこに対する手当として、今日話していただいたようなことはもちろん大事なことだと思うが、緊急避難的な施策としてフードバンク等が有効的だと言われている。何かそんな仕組みがあるといいのかなと思う。

【澤田子どものしあわせ課長】

子ども食堂の活動などは食糧配布を行っていること等、メールマガジン等で流してもらったりしている。

【井上会長】

登録型で希望された方に届くような仕組みを取っている自治体もある。そんなこともぜひお願いしたい。

■第3次八王子市子ども育成計画 令和元年度（2019年度）取り組み状況の点検及び評価について

【事務局】

（資料「第3次子ども育成計画 点検・評価報告書案（令和元年度（2019年度）分）」基本方針2、基本施策10、「子育て力向上への支援の充実」について説明）

【井上会長】

今年は健康フェスタや教育フェスタ等のイベント関係は開かれていないのか。

【澤田子どものしあわせ課長】

新型コロナウイルス感染症の影響により、様々なイベントが中止となった。

【事務局】

（資料「第3次子ども育成計画 点検・評価報告書案（令和元年度（2019年度）分）」基本方針3、基本施策11、「地域で支えあう子育てのまちづくりの推進」について説明）

【井上会長】

施策32の子ども食堂等への補助について、来年度以降は拡充の方向か。

【澤田子どものしあわせ課長】

新型コロナウイルス感染症の状況が分からないため、予算的には以前と同様に組んでいる。

【井上会長】

今年度はどうだったのか。

【澤田子どものしあわせ課長】

今年度は元々組んでいた予算に加えて補正予算を組み、子ども食堂1団体につき170万円までの補助という対応をした。

【井上会長】

現在、子ども食堂は何団体あるか。

【澤田子どものしあわせ課長】

19団体である。

【岡崎委員】

施策32の子育て支援に関わる市民活動団体への支援の充実とあるが、これは市民企画事業補助金で採択されたものが例になっており、協働推進課の予算の中で、たまたま子育て関係で採択された事業だと思う。子どものしあわせ課独自の予算で市民活動団体への支援を充実させているというものが何かあるか。

【澤田子どものしあわせ課長】

子どものしあわせ課としては子ども食堂への支援がある。これは市全体の計画なので、他の部署が行っている施策もここに載せている。

【岡崎委員】

市民企画事業補助金は外部委員の審査があり、そこで十数団体はその時の予算で採択される。市民のプレゼン力にも左右され、必ずしも子育て関係が毎回採択されると限らない。もし施策32で子育て支援に関わる市民活動団体への支援の充実という項目を掲げるのであれば、独自予算で何かやっていただきたい。

【子どものしあわせ課長】

ここで基金もできたので、今度は独自に考えていくことも可能だと思う。

【井上会長】

基金とは何か。

【澤田子どものしあわせ課長】

令和元年(2019年)に子ども・若者基金をつくり、令和2年(2020年)でさらに積み増ししている。この基金の使い方を今後考えていく。

【井上会長】

基金が先あって使い方が後からということか。

【澤田子どものしあわせ課長】

保育の無償化の関係で基金を作ることができた。基金の目的は、子ども・若者の健全な成長を推進することであり、今後充当する事業の選定を行っていく。

【井上会長】

せっかく基金を設けたので、今後それらの活用をする上で市民との連携等を含めて評価する等、何か基金のことを一言入れたほうがいい。今年度は活用していないのか。

【澤田子どものしあわせ課長】

今年度はまだ活用していない。

【井上会長】

基金の活用を次年度以降入れてもよい。

【事務局】

(資料「第3次子ども育成計画 点検・評価報告書案(令和元年度(2019年度)分)」
基本方針3、基本施策12、「子育てプロモーションの推進」について説明)

【井上会長】

フェイスブック、ツイッターの利用者は多いけれどアクセスしてもらえないのでは
ないか。

【澤田子どものしあわせ課長】

フェイスブックはかなりよい。メールマガジン等が少ない。

【井上会長】

メールマガジンはこの時代に合わなくなっている。新しいメディアなどへの工夫も必
要である。

【澤田子どものしあわせ課長】

今年度でリニューアルを考えている。

【井上会長】

そのことを書いた方がいいと思う。フェイスブックは告知・報告が両方セットで出て
くると見る方が多い。そういうところも工夫していただきたい。

【澤田子どものしあわせ課長】

各課がフェイスブックを更新できるので、工夫していきたい。

【井上会長】

「いいね」の数だけではなくて、閲覧数もチェックした方がいい。閲覧数が増えてい
れば問題はない。

【澤田子どものしあわせ課長】

フェイスブックは1,000人位見ている状況である。

【井上会長】

ツイッターも直近性が重要で、わんぱーくのような行事なら会場から発信してほしい。
市民委託してもいいのではないか。

【事務局】

(資料「第3次子ども育成計画 点検・評価報告書案(令和元年度(2019年度)分)」
基本方針3、基本施策13、「子育て支援に関わる地域人材の育成」について説明)

【井上会長】

児童館のボランティアが200人位少なくなっている。

【小池児童青少年課長】

大学生以上のボランティアは集めるのが難しい状況である。

【井上会長】

この辺のネットワーク作りは課題である。これだけ大学もありもったいないと思う。
大学は今どういう状況なのか。

【石田委員】

ボランティア等はほとんど抑制されており、最近ようやく解禁され始めたかなという
ところである。学生たち自身もやりたいなという思いもあるけれど、禁止されているか

らやれないということで、悩んでいる。

【井上会長】

以上ですべての点検評価が終了したが、後は事務局と私の方で定義をさせていただき、委員の皆さまには改めて最終版の御報告をさせていただくような形でよろしいか。

次回の会議はいつを予定しているか。

【事務局】

来年の2月位を想定している。

【井上会長】

本年度中にこの素案が出来るのか。

【事務局】

報告書自体は年内には発行する予定である。

【井上会長】

他に何か意見等あるか。

【石井委員】

施策6のアクション（改善）部分で、保育所ではより一層、幼児教育・保育の質を高めるため、認定こども園の設置を進めていくと書いてあるが、これは市民の方が見ると、保育園は認定こども園に比べて幼児教育や保育の質が低いと誤認を思う。基本施策6には施策17から20までであるが、このような認定こども園の設置を進めるという内容が施策でいうとどこにあたるのか。施策17から20までで該当しないように思う。

【井上会長】

「保育の質を高めていきます。」で一回切れればよい。他も書き方を変えた方がよいところがあると思うので、確認してほしい。

【石田委員】

今のところで追加で確認したいのだが、今後市としては認定こども園化を進めるという展開が出ている文章だが、今後増えていくのか。

【澤田子どものしあわせ課長】

希望される保育園や幼稚園が段々増えてきた。それに合わせて増やしていこうと考えている。

【井上会長】

保育の多様化を図りつつという書き方がよい。

【田上委員】

保育所では保育の質を高めると書いているが、学童保育の質を高めるというのはあまり聞いたことがなく、学童保育は子どもが行きたがらないところもあると聞いたことがある。小学生になったら子どもは自分でできるから、預かる場所だけあればいいという考えに読めてしまう。子どもが楽しく学童に通ってくれないと働く保護者には不安である。

【小池児童青少年課長】

学童保育も同じように質を高めようということでは、どの運営者も努力しているところである。学童保育所は小学校の学年やクラスの編成と違って1年生から3年生まで3

学年が一緒に過ごしていくという特徴があるので、そういうところでどういう活動ができるか、どういう放課後の過ごし方ができるか等を常に運営者の方も工夫して、いい取組をやっていこうとしている。

【井上会長】

八王子市は、学童保育だけではなく、全ての子どもたちの放課後の過ごし方を支えていくため、放課後子ども教室の全小学校区の拡大を計画していたが、どうなっているか。

【小池児童青少年課長】

今は基本的には全小学校で実施している。

【山本委員】

先日のわんぱーくの主催メンバーに知り合いが多く、フェイスブックで見えていたが、市で行っているというより市民団体が相当発信をして、市民を巻き込んでいるように見えた。市が市民をもっと巻き込んでやるべきではないかと思う。

【澤田子どものしあわせ課長】

本来はあの時期にオリンピックの子ども版をやろうと考えていたが、オリンピックが延期となったので今年は中止となった。ただ、子育て応援企業の方々とお話ししていく中で、せっかくだから何かやりたいということで、子育て応援企業の方々と実行委員会を作って進めていただき、市は共催という形になった。来年はオリンピックにちなんだことをやる予定である。今回を参考にしながらパワーアップしていきたい。

【山本委員】

刑務所跡地に集いの拠点を作る計画があるということだが、子育て親子に使ってほしいという目的があり、お父さんお母さんだけでなく、パワーがある市民の方々が他の市民を巻き込んで、どういうものを作るとよいか話し合うことを計画しているとのことである。そういうこともプロモーションの一環にできるとよい。

【澤田子どものしあわせ課長】

色々なところとつながりをもって発信していければよい。

【井上会長】

子育て支援フォーラムのようなものを起点にネットワーク化するような仕掛けを作っていければよい。

【石井委員】

基本施策 15、施策 44 の巡回発達相談の実施件数について、今実際に保育の現場で支援を必要とする子どもが増えている状況で、実施件数だけでは実態評価が難しい。保育園が希望した巡回発達相談に対する実施件数で実施率を自己評価等を出してほしい。より実態が見えやすくなる。

【井上会長】

巡回発達相談は定期的にはではなく園が依頼して行っているのか。件数が伸びている。

【田上委員】

発達障害ばかりで他の障害、例えば脳性まひ等の子どもに対して記載があまりない。関西の小学校ではエレベーターが完備されているところもあり、障害を持っていても普通学校も選択できる環境だが、八王子市は特別支援学校しか選択できない環境に思え

る。

【井上会長】

八王子市子ども・若者育成計画では、インクルージョン保育として障害のある子どもの保育に取り組んでいるが、教育の計画では、インクルージョン教育ではなく、特別支援教育の方向にシフトしている。

【大宝院副会長】

ケースによって、学校側でできる配慮は何かを判断しながら配慮していくことになる。既にエレベーターが完備されている学校なら活用ができるし、エレベーターのない学校では、その中でどう配慮をすればいいかを考えなければならない。

【井上会長】

八王子市は障害児関連病院と連携すれば、障害を持つ子どもの教育を推進する条件は揃っているように感じる。八王子市自体が障害の診断やサポートをするセンターを持っているわけではないので、将来持てるといいと思う。障害児支援センターを持ってその中に教育や保育を一緒になってやる拠点があると、そこを中心に仕組みが出来る。

【田上委員】

色々な方がいると知ることができる環境の方がいいと思う。

【井上会長】

保育の方ではかなり頑張っているが、一元化が出来ていない。一緒に考えていける環境を委員会で求めていくべきである。多様な子どもが認め合いながら育つのは必要である。

【岡崎委員】

八王子ビジョン 2022 を作る時に、2022 から子どもは教育と福祉と一緒に章立てにしたと言っていた。アクションプランや計画の方は教育と福祉で別々かもしれないが、長期のビジョンで初めて子どもの部分は一緒に章立てにしたということが、その時は画期的だと思った。このような審議会にも学校の先生が出席できるようになったというのは、そういうところの表れだと思う。次の八王子の長期ビジョンは 2040 年までと聞いているが、やはり市の基本であるから、また教育と福祉が一緒にできるような形に進めるイメージを持ってほしい。その時は障害も含めてやっていただきたい。

【澤田子どものしあわせ課長】

計画をどうやって立てていくか、市民等の意見を聴いていこうという段階である。

【井上会長】

市の中でプロジェクトチームとかできた聞いた。

【澤田子どものしあわせ課長】

動き出したところである。

【井上会長】

未来の八王子、持続する八王子に向かっているから、皆さんからの意見もまとめて要望を伝えていこう。SDGs の実現が次の計画でも立てられているが、目の前のことで消えてしまいそうでは困る。

【澤田子どものしあわせ課長】

前回の会議で中学生までの医療費助成が18歳までにならないのかということの回答であるが、今のところは予定していないということ。

【井上会長】

八王子市単独で子育て支援で上乗せしているような事業はあるのか。

【石田委員】

国基準の配置基準等が緩和されている中、八王子市の保育所の配置基準は、子どもたちを手厚くケアできるように配慮している。それは市が独自に頑張っているところだと思う。市はそれを子どもにやさしいまち、子どもの育ちを支えることに力を入れていると市民や対外的に、アピールしていいと思う。

【井上会長】

障害児保育の設置、幼児教育・保育センターの設置など多摩地域トップレベルだと思う。誰もこれを知らない。市民はこれを当たり前とってしまうが誇れることと思っほしい。

【石田委員】

障害児の職員加配の基準についても、他の自治体だと加配は出来ないといわれる場合でも八王子市では、保育・教育を手厚く行うよう努めていることも、誇れる。学童保育所でも加配を手厚く行っている。

【井上会長】

学童保育所は申請があったら認めているのか。

【小池児童青少年課長】

学童保育所は入所審査会議の中で、保護者の意見や施設側の意見を聴取しながら、加配するかしないかを判断している。

【井上会長】

基準はあるのか

【小池児童青少年課長】

障害児入所判定基準は要綱がある。

【澤田子どものしあわせ課長】

公立保育園は園長が集まる判定会議を開いて、そこで判定して加配が必要かどうかを決める。民間保育園に関しては申請をチェックして配置されているなら加配として認める方法である。

【井上会長】

どのくらいの要請で通るのか。

【澤田子どものしあわせ課長】

民間保育園からの申請を否定することはほぼない。

【小池児童青少年課長】

他市では診断書が必要等、要件がある。

【井上会長】

医者が認めなければ加配を絶対に認めないという自治体が多い。八王子市は子どもに優しい保育と言える。

【東郷子ども家庭支援センター館長】

誇れることとして、子ども家庭支援センターが5館もあるところは多摩地区ではない。

【小林子育て支援課長】

医療費助成について、補足したい。仕組みとして、保険証と医療証を持っていくと、窓口で医療費の助成が受けられるというものが多いが、その保険証を医療機関と契約をしているのは都道府県単位が多い。東京都が保険証を契約していることで、八王子市民が区内に行っても医療費助成が受けられる。東京都が作っている仕組みを八王子の独自制度で作るとなると、八王子市が全ての医療機関と契約をしなければいけない。全国規模でみると、都道府県レベルでやっているところに市区町村が乗っかっていることが多い。このような仕組みは東京都のなかでは難しい。

【井上会長】

子育てに優しいまちと言ったときに医療費・出産費は大きい。助成はこれからのキーワードだと思う。八王子市の出産数が近年毎年下がっているということは、やはり若い世代を引き込まないといけない。そのために何を打ち出さなくてはいけないか、我々も考えていかなければいけない。

【澤田子どものしあわせ課長】

毎年200人くらい減っているが、新型コロナウイルス感染症の影響でテレワークができるようになり、八王子市に引っ越す方も少し増えていると考えている。

【井上会長】

そのための応援に何ができるか、新しいことを考えていかないといけない。

【石田委員】

SDGsに関連して、公共施設の指定管理のところで、地域に貢献しているかの評価を入れられるようにした方がいいと思う。プレゼンテーションは民間企業の方が上手いので、評価をするときに地域の方が負ける。地域基盤の中で支えてくれていた方々が不利になってしまうのでないか。

【井上会長】

地域貢献を指標化するということか。

【石田委員】

はい。

【小池児童青少年課長】

学童保育所はNPO法人が多く、元々地域で自主学童をやっていたところから指定管理をしている。今回新型コロナウイルス感染症の影響で3月に小学校が臨時休校になった時も、毎日朝から学童保育所を開けてほしいと頼んだところ、私たちの地域の子どもたちだから私たちが守る、という意識がとても強く、子どもたちのためにという意味で開けてくれた。

【井上会長】

以上で児童福祉専門分科会を終了する。